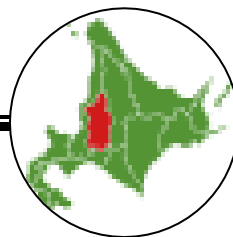


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】＝



1 「エコそらち」の構築に向けた環境配慮行動の普及啓発

空知総合振興局では、環境と調和した自然にやさしい「エコそらち」の構築を目指し、北海道らしい環境に配慮したライフスタイルの実践を図るため、「そらちエコラウンジ」事業を実施しています。

令和元年度（2019年度）は、環境月間（6月）及び廃棄物適正処理推進月間（10月）に環境配慮行動や廃棄物の適正処理に関するパネル展を開催したほか、「ふかがわスプリングフェスタ」や岩見沢市で開催された「環境フェスタ」に出展して、マイ・エコバッグ作り体験などを実施し、レジ袋の利用削減やプラスチックごみの減量化をはじめ、3R、地球温暖化防止など、環境配慮行動について理解を深めていただきました。

今後も「そらちエコラウンジ」事業を継続し、空知管内の市町がエコの輪でつながっていくよう効果的な取組を進めていきます。

■廃棄物適正処理推進月間パネル展



■いわみざわ環境フェスタ



（マイ・エコバッグ作り体験）

2 アライグマ対策の推進

空知管内におけるアライグマによる農業被害は、平成9年（1997年）頃から南空知地域を中心に発生し管内の多くの市町に拡大しました。

空知総合振興局では、関係者等に外来種であるアライグマに係る現状や課題について普及・啓発をするとともに、アライグマの防除については環境省への防除の確認申請及び認定が必要となることから、手続きの方法等について指導・助言を行ってきました。

その結果、平成30年度（2018年度）までに空知管内24市町全てで防除計画が策定され、各市町ごとに防除計画に基づき捕獲等の対策を行っています。

なお、住宅侵入等の新たな被害も発生していることから、平成30年度（2018年度）より、関係自治体等とともに「アライグマ捕獲技術検討会」を設置し、広域での捕獲などを協議しているほか、さらなる捕獲強化のため、自治体で開催する「アライグマ捕獲講習会」等に講師として参加し、効率的な捕獲方法などを説明しています。

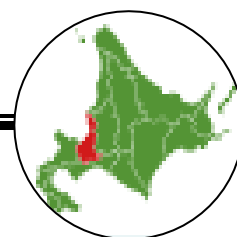
■アライグマ対策の講習会



■実際に捕獲されたアライグマ



＝【石 狩】＝



1 いしかり環境ミライ展 in 江別

道では、北海道洞爺湖サミットを契機に、「北海道地球温暖化防止対策条例」に定められた「北海道クールアース・デイ」（毎年7月7日）の関連イベントを、毎年開催しています。石狩振興局では、令和元年（2019年）の取組として、7月14日に江別市にある江別蔦屋書店において、「いしかり環境ミライ展 in 江別」を開催しました。

森の落ち葉を拾って顔を作ることで自然とふれあうワークショップや余熱を活用したエコクッキングなどの体験を通じて、資源を有効活用することの重要性や、日常生活の中で簡単に取り組むことが出来る環境保全活動について、参加者の皆様の関心と理解を深めることができました。

■ワークショップの様子



■エコクッキング講座の様子



2 3R推進キャンペーン&北海道クリーン作戦「ポイ捨てゼロの日」街頭啓発

石狩振興局では、令和元年（2019年）10月8日、札幌駅及び地下街アピアにおいて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進や、空き缶、ペットボトル、タバコの吸い殻の散乱防止を目指し、道民の環境意識の高揚とモラルの向上を図るため関係団体と合同で啓発活動を行いました。「やめようたばこ、空き缶等のポイ捨て」ののぼりをたて、3R啓発ティッシュ、メモ帳などを配布するとともにポイ捨てゼロへのご協力について声かけを行いました。

■札幌駅前での街頭啓発



■地下街アピアでの街頭啓発



3 地域環境学習「自然観察会 ～秋の野鳥観察会～」

身近な自然に接する機会を提供し、環境に配慮した地域作りを目指す「地域環境学習」として、令和元年（2019年）9月7日に石狩市との共催で秋の野鳥観察会を実施し、21名の方が参加しました。

会場は、多様な水鳥や猛禽類が見られることで知られる「いしかり調整池」。

北海道野鳥愛護会の樋口会長を講師にお迎えし、いしかり調整池では、アオサギやシギ類をはじめとして10種類以上の普段見ることのできない野鳥を観察することができました。

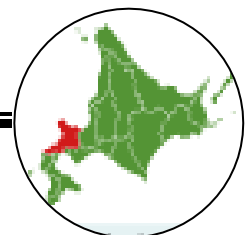
4 石狩地域エゾシカ対策事業「野幌シカセミナー」

札幌市や江別市の石狩中部地域においては、エゾシカの生息数が横ばいから増加継続にあると見られています。

札幌・江別・北広島の3市にまたがり所在する野幌森林公園における、エゾシカの生息動向や植生への影響の把握を行い対策方法の検討を行う「石狩地域エゾシカ対策事業」の一環として、野幌森林公園の自然ふれあい交流館において「野幌シカセミナー」を開催しました。

11月から12月にかけて「動物たちの今を知る」、「市街地に侵入するエゾシカ」、「野幌森林公園のエゾシカ」、「札幌圏のアーバン・ベア問題を考える」といった異なるテーマで計4回開催し、約100名の参加がありました。

＝【後 志】



1 環境学習「水生昆虫観察会～ニセコの川を見てみよう」

令和元年（2019年）は、8月7日にFF.ニセコ川を見る会及びニセコ町企画環境課とともに、環境学習「水生昆虫観察会～ニセコの川を見てみよう」を実施しました。ニセコ町の小学生らを対象に、ニセコ町内を流れるルベシベ川での水生昆虫、魚の観察を通して、川への親しみや魅力を感じていただくとともに、ルベシベ川の水質の状態を確認することで、身近にある水環境の保全に対する理解を深めていただきました。

後志総合振興局では、引き続き、清流日本一の尻別川を含む、管内河川の環境保全のための取り組みを推進していきます。

■水生昆虫観察会の様子



2 動物愛護に関する普及啓発

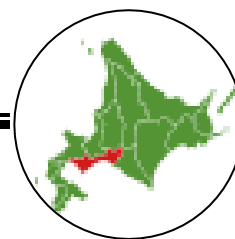
後志総合振興局では、9月20日から26日の動物愛護週間にあわせて、動物愛護に関するイベントを毎年開催しています。令和元年度（2019年度）は、9月20日に小樽市の協力を得て、また、9月21日から9月30日（※9/24は除く）の期間には、小樽市の動物愛護ボランティアとの共催で「動物愛護啓発パネル展」を開催しました。

会場となった小樽市保健所や小樽市博物館には多くの市民が訪れ、動物愛護ボランティアや動物愛護推進員のご協力の下、ペットの健康相談や動物愛護に関する説明、更には動物愛護ボランティアの保護猫に対する譲渡の問い合わせへの対応などを行いました。

■動物愛護啓発パネル展



＝【胆 振】＝



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成20年（2008年）7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを今後も継続的なものとするため、様々な取組を行っています。

（1）いぶりガイアナイト2019

「北海道クールアース・デイ」と連携し、平成21年（2009年）からガイアナイトイベントを開催しており、令和元年度（2019年度）は、7月18日にむろらん広域センタービル前庭において、「いぶりガイアナイト2019」を開催しました。

開催に先立ち、子ども達を対象とした、オリジナルキャンドルホルダーづくり体験イベントを

行いました。当日は、約 200 個のキャンドルからなるキャンドルアートへの点灯式のほか、わくわくおはなし会やハンドベルミニコンサートを行うとともに、これまでのガイアナイトを振り返る写真やオリジナルキャンドルホルダーを展示し、来場された地域の方々と地球環境のためにできることを考える時間を過ごしました。

併せて、関係機関と連携し庁舎ビルのほか、室蘭のシンボルである測量山や白鳥大橋のライトダウンを行いました。

■キャンドル点灯式



■わくわくおはなし会



■いぶりガイアナイトギャラリー



(2) いぶり環境サポーターズネットワーク事業

胆振管内では、身近な自然の復元を目的にビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭」や室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために浜の清掃活動や学校で子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動をしている「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」など、NPO 法人や各種団体等による様々な環境保全活動が行われており、胆振総合振興局では、これらのNPO 法人等が実施する取組へ積極的に参加しています。

令和元年（2019 年）は、10 月 6 日に河川の再生・復元を図る活動をしている「NPO 法人河川環境センター（知利別川を愛する会）」と協働して、ちりべつ川らん蘭橋広場（室蘭市）において「知利別川環境学習体験フェスタ 2019」を開催し、投網の実演や知利別川の生き物の展示、川下り体験などを行うとともに、10 月の「3R 推進月間」にちなみ、エコバッグ製作体験や北海道認定リサイクル製品の紹介等により、環境保全意識の高揚を図りました。

■室蘭イタンキ浜清掃活動



■知利別川環境学習体験フェスタ 2019



2 希少種タンチョウと共存のために

北海道を代表する鳥、タンチョウのペアが、むかわ町に飛来して定着したのが2011年のことでした。以来、このペアは順調に子育てを繰り返し、道央圏にタンチョウの定着が広がると期待されています。

この地域では「むかわタンチョウ見守り隊」が結成され、タンチョウのことを理解してもらい「積極的に見守る」ための活動が続けられています。

■むかわ町に定着したタンチョウ

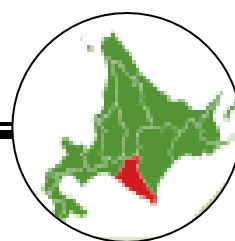


■むかわタンチョウ見守り隊の活動（巣の地上調査）



※巣の地上調査は、専門家の指導の下、タンチョウの家族には影響のない方法で行っています。

= 【日 高】



1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

7月7日の北海道クールアース・デイと連携し、住民の皆さんに地球温暖化防止の意識を高めていただくことを目的に、平成 23 年度（2011 年度）からガイアナイトイベントを開催しています。

令和元年度（2019 年度）は、7月2日から7月8日までの間、「うらかわガイアナイト 2019」として地球温暖化防止に係る啓発パネルを日高振興局エントランスホールにて展示し、使用済みペットボトルキャップを来庁者がはめ込んで完成させるイラストアートを展開しました。

また、最終日には商工労働観光課所有の電気自動車を展示し、北海道地球温暖化防止活動推進員によるセミナーの開催及び使用済みペットボトルを再利用して作るオリジナルキャンドルスタンド作りを実施しました。

その他、期間中にキャンドル等の配布を日高振興局エントランスホール、浦河町役場ロビー及び浦河町総合文化会館ロビーにて実施しました。

■うらかわガイアナイト 2019（パネル展示、イラストアート）



■うらかわガイアナイト 2019（セミナー、キャンドルスタンド作り）



2 3R（リデュース・リユース・リサイクル）等の普及啓発に関する取組

10月の3R推進月間にあわせ、令和元年（2019年）10月24日に、浦河町総合文化会館で開催されたうらかわ消費生活展にて、3R推進・エコライフスタイルに関するパネル展示や啓発物品の配布を実施しました。

また、令和元年（2019年）10月23日に“プラスチックとの賢い付き合い方”に関する知事メッセージが発信されたことを契機とし、地域住民の皆様理解と協力を目的として、令和2年（2020年）2月25日から2月28日までの間、「ごみの散乱防止などに関するポスター及び標語」の入賞・入選作品の展示や啓発物品の配布を実施しました。

■うらかわ消費生活展（パネル展示、啓発物品配布）



■ごみの散乱防止などに関するポスター及び標語展示（パネル展示、啓発物品配布）



3 エゾシカ対策

日高管内では、エゾシカの農林業被害が増大しており、地域の課題となっています。

農林業被害の8割近くは牧草ですが、牧場付近での銃器によるエゾシカの捕獲は、軽種馬や牛の誤射や、銃声に驚いて暴走させケガを負わせたりする危険性があるため、日高振興局では、くくり

わなによる捕獲を促進しています。

わな免許取得初心者等を対象に、捕獲技術を伝える「くくりわな捕獲技術講習会」を日高町で開催し、9名の方に参加いただきました。

■くくりわな捕獲技術講習会



4 アポイ岳における高山植物盗掘防止の取組

日高山脈襟裳国定公園の南端に位置するアポイ岳は、標高 810mという低標高ながら、ヒダカソウやエゾコウゾリナをはじめとした希少な固有種が多数みられる花の名山として知られています。

こうした希少な高山植物の不法盗掘を防止するため、振興局をはじめとした関係機関・団体と合同で毎年5月から6月にかけてアポイ岳の合同監視を行うとともに、登山者にリーフレット等を配布する盗掘防止キャンペーンを実施しています。

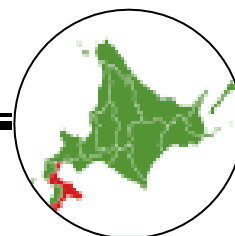
■ヒダカソウ



■エゾコウゾリナ



＝【渡 島】＝



1 灯りを消して七夕を

渡島総合振興局では北海道クールアース・デイの取組の一環として令和元年（2019年）7月7日（七夕の日）に省エネルギー、地球温暖化防止を推進する取組を実施しました。

函館の七夕は、子どもたちが近隣の住宅や店舗等を回って七夕の歌（竹に短冊七夕祭り大いに祝おうろうそく一本ちょうだいな）を最後まで歌うろうそくやお菓子をもらえる風習があります。

そこで七夕の日に合わせて渡島合同庁舎前で子どもたち 300 人を対象に地球温暖化防止の普及啓発資材（ろうそく、地球温暖化防止のチラシ等）とお菓子を渡しました。

また、その際に自宅での電気照明を消してもらい、ろうそくの灯りで地球温暖化を考えてもらうガイアナイトへの取組を呼びかけるとともに、3Rなど広く環境に関するパネルの展示を見ていただきました。

■七夕イベントの様子



2 ヒグマ注意特別期間のイベント開催

地域の方にヒグマの生態などについて関心と理解を深めていただくことを目的に、「パネル展」や「ヒグマ出前教室」を開催しました。

「ヒグマ出前教室」は、警察と合同で開催した講演会「山菜採りから安全に帰るための講座」の中で、約50名の参加者に対して〇×形式のクイズを交えながら、植物を主体に摂食しているといったヒグマの生態や、ヒグマとの突発的な遭遇や事故を防止するための注意点などについて説明しました。

■山菜採りから安全に帰るための講座



3 動物愛護週間イベント

令和元年度（2019 年度）は、地域の方に動物愛護について関心と理解を深めてもらう目的で、獣医師会、動物愛護推進員、その他ボランティアの方々に御協力いただき、どうぶつ愛護フェスティバルを開催しました。

獣医師によるペットの健康相談や獣医師体験の他、盲導犬とのふれあい体験やポニーの乗馬体験を通じて、動物愛護に関する理解を得るイベントとしました。

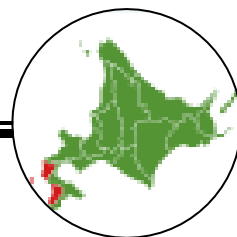
■盲導犬ふれあい体験



■乗馬体験



＝【檜 山】＝



1 ひやまの環境教育

(1)「ひやまりサイクル工作コンクール」の開催

檜山振興局では、平成 10 年度から管内の小学生を対象に「ひやまりサイクル工作コンクール」を開催し、身の回りの不要品を再利用した工作を通じて「物をできるだけ長く大切に使う」、「使わなくなった物は資源に回す」等の 3R に向けた意識を育んでいます。

令和元年度（2019 年度）で 22 回目を迎えた同コンクールは、環境教育イベントとして定着しており管内の全小学校（19 校）から、毎年およそ 300 作品の応募があります。作品は管内 7 町の 9 カ所の町民文化祭会場等で展示され、子どもから大人まで幅広く御覧いただきました。

■振興局で開催した全作品展示会



■振興局で開催した入賞作品展示会



(2)「プロジェクト WET」「プロジェクト WILD」による体験学習

檜山振興局では、江差町教育委員会や江差町の小学校と協働し、小学生を主な対象として「プロジェクト WET」「プロジェクト WILD」（※）を活用した環境学習会の開催に取り組みました。

令和元年度（2019 年度）は、夏・冬休みの登校日における朝活動や親子向けの理科実験教室に職員を派遣し、延べ約 60 名の小学生等にゲームや折り紙を取り入れたアクティビティを通じて水の大切さや身近な鳥の特徴等を学んでいただきました。

※国内外の多様な地域で活用されており、座学とは異なる体験型の環境教育プログラムです。

■プロジェクト WET の様子



■プロジェクト WILD の様子



2 ひやまの環境保全活動 ～海岸や街並の環境美化～

檜山管内は海や森林に囲まれた景観が美しい地域であり、管内の各町においては海岸や街並の環境保全に向けて、町内会等の住民団体、地元企業及び行政機関等との連携による環境美化活動（清掃活動）が毎年実施されております。

また、檜山振興局の調べでは、令和元年度（2019 年度）の管内における環境美化活動の参加者数は、例年と同様の延べ 2,600 名余りであり、こうした多くの参加者の協力により地域の環境保全が支えられています。

■江差町の清掃活動の様子



■乙部町の清掃活動の様子



3 ひやまの野生鳥獣対策 ～「鳥獣対策技術講習会（わなのかけ方勉強会）」の開催～

檜山管内では野生鳥獣による農業被害が後を絶たない状況ですが、鳥獣対策で重要な役割を担う狩猟者は高齢化が進むとともに、その数も減少傾向を示してしています。

このため、檜山振興局では、野生鳥獣による農業被害に遭っている方等に向けて、自衛による野生鳥獣防除対策の普及啓発、狩猟免許取得の促進及び狩猟者の育成に積極的に取り組んでいます。

こうした取組の一環として、令和元年（2019 年）11 月 28 日に厚沢部町内において、厚沢部町、JA新はこだて厚沢部支店、北海道猟友会江差支部、檜山振興局等の関係機関・団体が協働し、「鳥獣対策技術講習会（わなのかけ方勉強会）」を開催しました。

当日は、「エゾシカの捕獲」をテーマに、わな免許を取得してから1年未満の方を中心とした38名の参加者に、猟具の特徴やエゾシカの生態等の講義を受講していただいた後に、町内の畑に移動し、わなのかけ方の実地演習を行いました。

地元の農業者でもあるベテラン狩猟者による実演と指導に、参加者からは次々と質問や相談が寄せられるなど、活発な質疑応答が繰り広げられました。

初めての試みでしたが、講習会全体を通し、捕獲技術の向上に熱心に取り組んでいただけました。

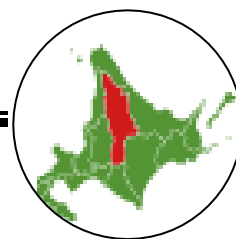
■本物のわなを使った講義



■わなのかけ方を実演



＝【上 川】＝



1 エコ&セーフティドライブの取組

道は、環境負荷の少ない運転をすることで二酸化炭素排出量の削減と交通安全を一体的に推進するため、「エコ&セーフティドライブ」の普及を進めています。

上川総合振興局では、令和元年（2019年）7月28日に、（一社）旭川地区トラック協会が開催した「トラックふれあいフェスティバル」において、幅広い世代の皆さんに環境負荷の少ない自動車の仕組みや運転技術への理解を深めてもらうため、燃料電池自動車の展示やエコ&セーフティドライブ等に関するパネルの展示を行いました。

また、「環境忍者えこ之助」が子供たちと積極的に交流しながら、レジ袋の利用削減に向けて、マイ・エコバッグ作りを体験してもらい、楽しみながら3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進の取組について理解を深めていただきました。

■マイ・エコバッグ作り体験



2 キャンドルナイト in 旭川

令和元年（2019年）6月16日及び12月14日に、旭川市市民活動交流センターCoCoDeにおいて「キャンドルナイト in 旭川」が開催され、地域の皆さんが地球環境について考えながら、スローな時間を楽しみました。

上川総合振興局では、参加者のみなさんに地球に優しいエネルギーの利用や、3R推進の取組について理解していただくために、ミツバチの巣を原料としたミツロウを使ったキャンドル作り、マイ・エコバッグ作りや地球環境についてのクイズラリーの体験コーナーを出展しました。

特にミツロウキャンドルは、通常のろうそくに比べ、石油を原料としないことから油煙が少ないことや最後まできれいに燃えることが特徴となっている、人にも環境にもやさしいキャンドルです。参加者の方からは、エコな取組を「少しずつやるちゃんとやる」という声や、「来年もやってほしい」という要望等もいただきました。

■ミツロウのキャンドル作り



3 地域環境普及学習事業「自然観察会 in 富良野市鳥沼公園」

地元の魅力的な自然環境や歴史を学ぶため、令和元年（2019年）10月5日（土）に地元博物館学芸員と地域で自然保護等の活動している「ザリガニ探偵団」の方を講師に「自然観察会 in 富良野市鳥沼公園」を開催しました。

当日は、雨がぱらつく中での開催となりましたが、葉の特徴を観察して樹木の名前を当てたり、幹の太さから樹齢を推測するクイズを実施しました。また、事前に仕掛けていた罠にかかったねずみを観察したりもしました。講師の先生の話も歴史・風土など多岐にわたり勉強になったと好評で

した。

昼食時には、北海道のエゾシカジビエの取組を説明しながら、エゾシカジギスカンを味わってもらいました。

今後も、こうした地域の自然環境、環境教育に関する啓発活動を行っていきます。

■キノコの観察



■幹の太さ計測の様子



4 登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～

大雪山国立公園は、雄大な山岳景観を楽しみながら夏の間、エゾコザクラ、チングルマ、キバナシャクナゲ、エゾノツガザクラなどの高山植物や、ホシガラスやギンザンマシコ等の野鳥をより間近に観察できる場所です。また、秋にはナナカマドやチングルマ等の鮮やかな紅葉を楽しめるため、国内はもとより海外からも多くの登山者が訪れる人気の場所となっていますが一方で、利用者の増加や集中豪雨等の自然現象により登山道の浸食や崩壊が進んでいます。

上川総合振興局では、登山道での事故の可能性を減らすとともに、大雪山の優れた自然環境の保全を図り、貴重で豊かな自然を次世代に引き継ぐことを目的として、令和元年（2019年）8月18日と8月31日に地元の山岳関係団体と共催で、「登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～」を開催しました。

当日は一般参加者のほか、山岳会等の関係者や行政機関の職員など計2回総勢75名により、丸太や現地石等を活用した登山道の段差解消の作業や木道補修などを行いました。

このような官民協働による補修作業は、一般参加者と山岳関係者などが一緒に作業することにより、参加者全体の環境保全意識の向上に繋がり、また、山岳事故の未然防止にも寄与できるものと考えています。

今後もこうした官民協働によるセミナーを継続して行うことにより、山岳環境保全意識の向上に努めていきます。

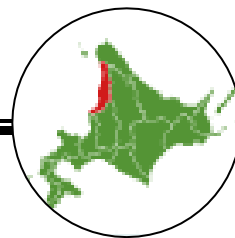
■補修資材運搬の様子



■補修作業の様子



＝ 【留 萌】



1 増毛山道再生の取組

日本海に面し断崖絶壁が続く雄冬海岸（雄冬岬）を貫く国道 231 号（増毛国道）は、昭和 56 年（1981 年）に全線開通しましたが、かつては茂津多岬、神威岬とともに西蝦夷地三險岬と呼ばれた交通の難所でした。この海岸線を迂回すべく、安政 4 年（1857 年）に江戸幕府の命を受けた増毛漁場請負人の商人 伊達林右衛門によって開削された道路が「増毛山道」です。

この山道は、その後の交通機関の発達等により、次第に利用者が減少し、昭和 16 年（1941 年）の武好駅通^{※1}（ぶよしえきてい）の廃止以後は利用する人もほとんどなくなり、いつしかネマガリダケ（チシマザサ）の藪に埋もれていました。しかし、平成 21 年（2009 年）から留萌振興局と NPO 法人増毛山道の会が協働でその再生事業に着手、その後、地元自治体や石狩振興局など関係機関の協力を得ながら、8 年の歳月をかけ平成 28 年（2016 年）10 月、石狩市浜益区幌から増毛町別笥までの全線 27km^{※2}の復元が完了しました。

毎年開催している増毛山道の会による山道体験トレッキングでは、暑寒別天売焼尻国定公園内の豊かな自然や増毛山地の山並、日本海の眺望のほか、武好駅通跡、当時の電信柱、橋の石積み跡、仏様の台座、遠く三河産花崗岩で造られた水準点標石等、北海道開拓を物語る多くの歴史的遺構を見ることができます。

令和元年度（2019 年度）は、北海道遺産第 3 回選定（平成 30 年（2018 年）11 月）において、増毛山道と濃屋（ごきびる）山道が選定されたことを記念し、「増毛山道と濃屋山道講演会」および「山道パネル展」を開催したほか、山道に関わる人材を育成するためのガイド研修やササ刈りボランティア研修、さらには増毛山道を将来に継承することを目的として、石狩市立浜益小学校・増毛町立増毛中学校の児童・生徒を対象とした山道学習会を開催しました。

（注）※1 駅通（所）とは明治期に作られた北海道独自の制度で、宿泊・人馬継立・郵便等の業務を担った施設。

※2 増毛町岩尾までの分岐道を加えると全長約 32km。

■増毛山道と濃屋山道講演会



■増毛山道学習会（増毛中学校）



2 動物愛護週間行事のイベント

9月の動物愛護週間行事の一環として、留萌獣医師会、留萌市、人と海鳥と猫が共生する天売島、動物愛護推進員とともに、『第3回動物愛護フェスティバル in 留萌』を開催しました。

「共に生きる～シニアペットとシルバー世代～」をテーマとした今回のイベントでは、ペットの健康管理についての講演のほか、ペットの食餌管理の講演やクイズ、動物救護の現場についての講演、動物愛護やペットの防災対策等のパネル展、ペットの健康相談や保護猫の譲渡会など多彩な催しを行い、会場には200人以上の来場者がありました。

■ペットの健康管理講演



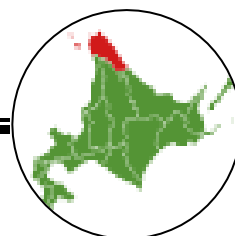
■ペットに関するクイズ



■動物救護に関する講演



＝【宗 谷】＝



1 礼文島の高山植物を守るために

利尻礼文サロベツ国立公園の礼文島は、レブンアツモリソウやレブンウスユキソウをはじめとした固有の植物が生育するほか、丘陵状の地形に約300種もの高山植物群落が生育することから、花の浮島とも呼ばれています。島内には全7コース、全長約50kmにも及ぶ自然歩道があり、関係者が協力してこれらの歩道を管理しています。

宗谷総合振興局では、岬めぐりコースであるゴロタ岬周辺の歩道について、浸食等が進み、周辺の植生へ影響を与えている箇所などを、平成31年4月に地元NPO法人や自然ガイド、行政機関職員により、椰子繊維の土嚢を使用して補修を行いました。

また、6月と7月には、関係機関等と連携しながら「高山植物盗掘防止キャンペーン」を実施し、礼文島を訪れた観光客に対し、リーフレットの配布など行うほか、盗掘監視パトロールを実施しています。

今後も、礼文島の自然を守りながら、持続的な利用ができるよう官民協働による取組を進めていきます。

■歩道補修の様子



2 宗谷クリーンアップ運動

北海道洞爺湖サミット開催（平成 20 年（2008 年）7 月）を通じて高まった道民の環境保全意識の持続を目的とした全道的な普及啓発活動の一環として、宗谷総合振興局では、平成 21 年度（2009 年度）から「宗谷クリーンアップ運動」を展開しています。

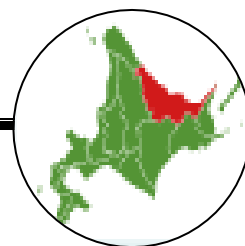
取組としては管内各地の清掃活動への参加、6月の環境月間におけるパネル展の実施、また「宗谷クリーンアップサポーター宣言」の参加団体を募っています。

清掃活動については、令和元年度（2019 年度）は5箇所に参加しました。また、サポーター団体数は令和2年（2020 年）10月現在で61 団体となっています。

■幌延町における清掃活動の様子



ー【オホーツク】



1 3Rなどの普及啓発活動

オホーツク総合振興局では、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の啓発活動の一環として、イベントや学習会の開催を行っています。

令和元年度（2019 年度）は、網走市において網走消費者協会と連携した3R 推進のイベントを開催しました。イベントでは、ポスター掲示のほか、北海道認定リサイクル製品の展示、段ボール模型の工作体験、来場者の各家庭の取組みの紹介などを行い、約 160 名の方々に参加いただきました。このほか、1月には網走市の幼稚園において、振興局職員が園児、保護者、幼稚園職員約 170 名を対象に、ごみの分別やエコバック利用促進についての講演を行いました。

また、5月には西紋別地区の市町村や一部事務組合の廃棄物担当者との勉強会を開催し、廃棄物処理の現状や今後の課題について、積極的な意見交換を行いました。

■イベント会場の様子



■イベントの展示コーナー



■幼稚園での講演の様子



2 オホーツク動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間行事の一環として、獣医師会、動物愛護推進員、ボランティアとともに動物愛護週間イベントを開催しました。

「動物愛護フェア～考えよう！ペットとの暮らし～」と題したイベントでは、ペットとの接し方や災害への備えに関する講演会のほか、動物愛護についてのポスター展示やマイクロチップの読み取り体験などにより、ペットの愛護、適正飼育やマナーについてPRを行いました。

講演会には80名もの方々にご来場いただき、しつけの方法や災害時の対策について考え直すきっかけになったという感想を多く頂戴し、動物愛護や適正飼育だけでなく、危機管理に対する理解を深めるイベントになりました。

■講演会の様子



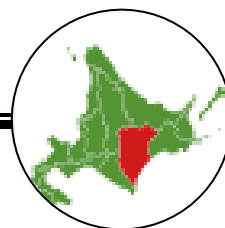
■動物愛護ポスター展示



■ペット用備蓄品



＝【十 勝】＝



1 「もっとエコなとかちづくり」～とかち地域資源活用・価値創造事業～

十勝総合振興局では、平成20年度（2008年度）から「もっとエコなとかちづくり」を合言葉に低炭素型ライフスタイルの定着・促進を目指した取組を行っています。

普及啓発活動として、帯広市等主催の「とかち・市民『環境交流会』2019」では、地域で社会貢献活動を実施している環境コンサルタント会社の方を講師に、子ども向け環境体験教室「身近なもので電池を作ってみよう！！」を実施したほか、「エコドライバーズ宣言」の呼びかけや「不法投棄やめさせ隊」の募集など、地域で取り組む環境保全行動について啓発活動を行いました。

また、十勝総合振興局及び北海道建築士会十勝支部主催の「きた住まいるフェア」において、環境体験教室「ソーラーカーを作ろう」を実施したほか、参加者がゲームを通じて環境にやさしい生活行動を考えました。

■環境交流会



■ソーラーカーを作ろう



2 地球温暖化防止対策イベント「ガイアナイト」の実施

「北海道クールアース・デイ」の取組の一環として、地域の商店街及び帯広市の協力のもと「おびひろ広小路ビールまつり2019」において「ガイアナイトinおびひろ2019」を開催しました。普段は賑やかなビアガーデンの照明を消灯し、来場者は幻想的なろうソクの灯りの下で、アコースティックミニライブに耳を傾けながら、地球環境についてそれぞれ想いをめぐらせました。

■ガイアナイト



3 動物愛護週間行事のイベント

(1) 動物愛護フェスティバル

帯広市の総合施設のイベントである「プラザまつり」との合同開催で、動物愛護フェスティバルを行いました。十勝獣医師会による獣医師体験、動物愛護団体によるチャリティバザーや飼い主募集中犬猫のプロフィール紹介、一般社団法人アニマルウェルフェア畜産協会によるアニマルウェルフェアの解説など多彩な催しを行い、2日間で約750人の来場者がありました。

■獣医師体験



■チャリティバザー



■アニマルウェルフェア解説



(2) パネル展

9月20日から9月26日までの動物愛護週間の期間中、十勝総合振興局1階道民ホールで、パネル展を行いました。

「ペットも守ろう！災害対策」と題し、災害に備えて飼い主が日頃から行うべき対策をパネルで具体的に紹介しました。

■展示の様子



4 エゾシカ有効活用PRイベント

(1) 「TREE FESTIVAL」

近年、エゾシカが増加しており、餌の確保ができなくなったエゾシカが、森林に生息している草木を食べつくすことで植性が悪化してしまうことが問題となっています。

十勝総合振興局では、銀河の里TreeFestivalほんべつ実行委員会が主催する十勝の木に触れて遊んで学べるイベント「TREE FESTIVAL」において、地域住民にエゾシカについて知ってもらうためにエゾシカ問題を紹介するパネル展示、シカの角を使った輪投げコーナー、シカの皮とかぶり物を使っての「エゾシカなりきりコーナー」を出展し、皆様に理解を深めていただきました。

■会場の様子



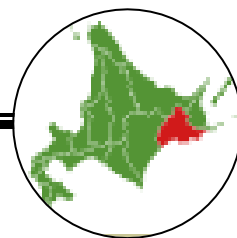
(2)「とちエゾシカフォーラム」

「十勝の大収穫祭」のイベント企画として、「十勝エゾシカフォーラム」でパネルディスカッションと来場者アンケートを実施し、「エゾシカPRブース」でエゾシカ肉加工品や皮・角製品を展示しました。また、「おいしい十勝グルメフェスタ」では、管内のエゾシカ肉加工認証施設から購入したエゾ鹿肉を使ったハヤシライスやペルシャード（香草パン粉焼き）を提供しました。

■会場の様子



＝【釧 路】＝



1 ウチダザリガニ防除の取組

特定外来生物ウチダザリガニの防除は、今では道内各地で盛んに行われていますが、釧路市春採湖では平成20年度（2008年度）から続いており、釧路市は防除のパイオニア的存在となっています。令和元年度（2019年度）までに累計で3万個体を超えるウチダザリガニを捕獲してきました。

一時は激しく水草が減少し、国の天然記念物に指定されているヒブナの産卵等への影響が危惧されていましたが、現在は回復傾向にあることが確認されています。また、ウチダザリガニを捕獲するわなに、在来種のモクズガニが入る数も増加しており、これまで実施してきたウチダザリガニ防除の効果の一つである可能性も考えられます。

釧路市は令和2年度（2020年度）も引き続き、春採湖のウチダザリガニ捕獲事業を実施することとしています。



2 2019 動物愛護フェスティバル in くしろ

動物愛護週間にちなみ、令和元年（2019年）9月28日に釧路市内で開催したイベントのテーマは「共に生きる～シニアペットとシルバー世代～」でした。

災害時における同行避難に関する準備、しつけに関するパネル展示、ペット防災グッズの展示のほか、動物愛護団体による譲渡予約会、ペットの無料相談などを実施し、延べ240人の方々に関心を寄せていただきました。



3 タンチョウ越冬分布調査

環境省の委託を受け北海道が実施しているタンチョウ越冬分布調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータになるだけでなく、小・中学校の児童生徒の環境教育、関係機関の相互連携の醸造などにも役立っているところです。

令和元年度（2019年度）においては、初めて釧路市以外の小学校が調査に参加し、関係機関・団体も市町村、教育委員会、釧路市動物園のほか、平成29年度（2017年度）からは北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社（JAL）が参加するなどして、調査者が増えたことによって、きめ細かな調査が可能となりました。



調査結果としては、平成30年度（2018年度）は広く道北、道東、道央に分布が見られましたが、令和元年度（2019年度）は比較的多数が釧路管内で観察されており、第1回が1,251羽、第2回が1,370羽のタンチョウが確認されました。

4 くしろ消費者まつりにおける環境啓発の実施

消費生活の安全と確かさの確立を目的とした「くしろ消費者まつり」は、釧路市と消費者協会が主催となり、趣旨に賛同した多くの市民団体・企業・行政が地域と一体化した啓発、体験活動を行っています。毎年冬の寒い時季ながらも、世代を問わず多くの市民の方が訪れるイベントです。

令和元年度（2019年度）は、令和2年（2020年）2月1日、2日に開催されました。釧路総合振興局では、昨今の環境問題について広く取り上げ、地球温暖化の緩和と適応をテーマにパネルを展示したほか、廃プラスチック削減の促進のためエコバッグの配布などを行いました。

■くしろ消費者まつり会場の様子



5 くしろエコ・フェアにおける環境啓発の実施

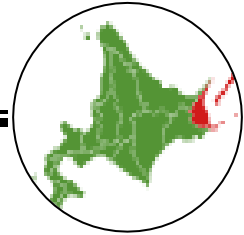
「くしろエコ・フェア」は、環境に関心のある団体・個人が「くらしと環境」について考える場を共有したいとの思いから、平成19年（2007年）、地域の市民団体・企業・行政による実行委員会が発足し、毎年環境月間である6月に様々な取組みを行っています。

令和元年度（2019年度）は6月29日にイオンモール釧路昭和で開催されました。釧路総合振興局では、地球温暖化防止対策を周知するパネル展示や軍手の配布、廃プラスチック削減の啓発のため折り紙製のティッシュケースの配布を行いました。訪れた市民の方からは「ティッシュケースを作りたい」という声や、今後の環境問題にどう対応していくべきかという話もあり、環境について考える契機となっていました。

■くしろエコ・フェア会場の様子



=【根 室】



1 世界自然遺産・知床の日

知床がユネスコの世界自然遺産に登録されたのは、平成 17 年（2005 年）7 月 17 日。それから 10 年、改めて知床の価値を見つめ直し、私たち北海道の大切な財産を、未来の世代へしっかりとつなげるようにという目的で、平成 28 年（2016 年）3 月に、知床の保全や適正な利用を推進するための北海道知床世界自然遺産条例が制定されました。

この条例においては、知床世界自然遺産の保全等を推進するに当たり、「関係行政機関・団体と道民や来訪者、事業者との協働」や「世界自然遺産としての顕著な普遍的価値に対する道民等の理解の増進」が必要であると謳われ、また、「道は、そのために必要な措置を講ずるもの」と規定されています。

知床が世界遺産だと言うことはよく知られるようになりましたが、知床のどんなところがすごいのか？ということはありません。そのため、知床について考えてもらうために「知床の日」をつくりました。

なぜ、1 月 30 日を「知床の日」にしたのかというと、知床は北半球において流氷が接岸する南限であり、また、流氷は多くの生態系に恵みをもたらします。知床が世界自然遺産になった平成 17 年（2005 年）に、知床で流氷が接岸した最初の日が 1 月 30 日でした。知床の素晴らしい自然には流氷がとても大きな役割を果たしています。道では、知床の豊かな生態系を支える出発点として重要な意味を持つ「流氷」にちなみ、知床における流氷接岸初日を「知床の日」としました。

「世界自然遺産・知床の日」に協賛するイベントが地元の町や道庁赤レンガで開催されています。根室振興局では、1 月 30 日の「世界自然遺産・知床の日」について、道民に広く浸透させることを目的として、令和 2 年（2020 年）1 月 24 日から令和 2 年（2020 年）2 月 4 日までの間、振興局の道民ホールにおいて、パネル展を実施し、「世界自然遺産・知床の日」の啓発活動を行いました。

■パネル展の様子

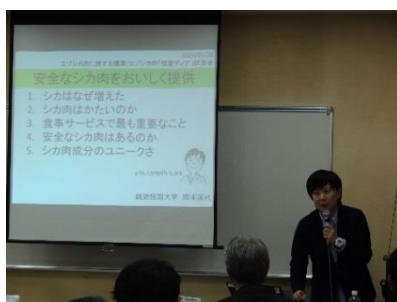


2 根室地域産エゾシカ肉の有効活用促進事業における試食会の開催

根室管内で捕獲されるエゾシカの肉を有効活用することを目的として、協議会を設立し、平成30年（2018年）から、根室産エゾシカ肉の知名度向上や管内の流通促進、提供店舗の増加、共有素材の検討などを協議しています。

令和元年度（2019年度）は、協議会開催に加えて、標津郡中標津町でエゾシカ肉の試食会を開催し、釧路短期大学の岡本匡代教授の講演、Kitchen Support 青 青山則靖代表の料理実演や試食、北海道全調理師会中標津支部加盟店提供料理の試食などを行いました。

■岡本教授の講演



■青山代表の実演



■試食の様子



3 エコスクール・地球環境モニタリングステーション-落石岬見学会の開催

子どもたちが地球温暖化などについて理解を深めることにより、環境と人間の関わり、環境保全の重要性を学ぶことを目的として、平成10年（1998年）から、国立環境研究所地球環境研究センターのご協力のもとエコスクールを開催しています。

令和元年度（2019年度）は、根室市と共同で6月6日に開催し、根室市落石小学校5、6年生の生徒18名を対象に、落石岬地球環境モニタリングステーションの見学、自転車発電体験や船山北海道地球温暖化防止活動推進員による地球温暖化に関する環境学習会などを行いました。

■モニタリングステーション見学風景



■船山推進員による地球温暖化学習会



■自転車発電体験

